**通級による指導実践事例　中学校No.１**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・状況に応じた適切な社会性・コミュニケーションスキルを身につける・限定的な思考にならず、物事に折り合いをつけることができる |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　1年 | 指導時期 | 4月～ |
| ・相手の立場や思いを想像して行動したり発言したりすることが難しい・社会性やコミュニケーションにおいて困難さがある・自己中心的な思考になりやすく、切り替えが難しい・見通しが持てない状況からくる不安によってストレスを感じやすく、感情的な発言や行動を起こしてしまう |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 状況の理解と変化への対応に関すること |
| 人間関係の形成 | 自己の理解と行動の調整に関すること |
| コミュニケーション | 状況に応じたコミュニケーションに関すること |
| 本事例のキーワード | 行動の分類　感情の理解　感情と認知の関係性の理解 |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①②について**・生徒が行動を振り返る際に、「相手に原因があるから自分の行動には問題がない」といったような、自分中心の考え方にならないよう、客観的に考えさせる・行動の例は付箋に書いておき、生徒が自分で分類作業をできるようにする・生徒が分類作業に慣れてきたら、生徒自身にも思いついた行動を新しい付箋に書かせる | ・後の指導で不適切な言動があった場合に、「その言動は表の何色に分類されるか」という声かけで、行動のレベルを客観的にとらえることができた |
|  |  |
| **行動の段階を理解する** |
| **①行動のパレット**・例に挙げる行動を「赤：危険な行動」「黄：注意すべき行動」「灰：良くは思われない行動」「緑：適切な行動」の４つに分類する*【参考Ａ】***②適切な行動とは**・自分の行動を振り返り、緑に分類されるような適切な行動を増やしていくことについて考える　 |
| 【第二段階に向けて】・各色の行動を起こすきっかけについて考える |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①②について**・書くことに抵抗がある生徒が作業しやすいように、気持ちを表す言葉が書かれた付箋を準備しておく・学級担任から、以前あったトラブルなどを聞いておき、その原因になったキーワードなどをワークシートに盛り込んでおく | ・自分が苛立ちや怒りを感じた際に不適切な言動が多かったが、誰のどんなところに苛立ちや怒りを感じているのか、自分の苛立ちや怒りの原因について説明できるようになった |
|  |  |
| **行動の裏にある感情を理解する** |
| **①気持ちを表す言葉**・生徒自身が使う、気持ちを表す言葉を挙げさせ、それらの言葉を＋の気持ち（ポジティブ）、－の気持ち（ネガティブ）に分類する*【参考Ｂ】***②苛立ちや怒りにつながる気持ち**・①の中で、自分にとって苛立ちや怒りにつながる気持ちを考える |
| 【第三段階に向けて】・苛立ちや怒りの原因は何か、苛立ちや怒りの感情になる要因について考える |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | **①について**・生徒が限定的な思考から「自分はこうは思わない」とこだわる場合は「こう思う人もいる」「いろいろな考え方をする人もいる」という思考の多様性について丁寧に具体例をあげて説明を行う・生徒が新しい考え方をできたときにはそのことをほめるなど、肯定的な言葉かけを行う | ・相手に対して、冷静に考えられる場面では「○○さんの考えはこうかもしれない」と相手の考えを自分から想像して言及することができた・今後は実際にトラブルがあり、生徒がクールダウンした後の指導場面において、認知を変えることで感情のコントロールができるよう、在籍校と指導の連携を行っていく |
|  |  |
| **感情と認知のつながりについて知る** |
| **①具体的な例をとおして気づく**・認知（物事の捉え方）によって同じ場面でも感じ方が違うことに気付く（例：周りから注目されているとき）・さまざまな場面で、捉え方によってどのような感情になるかを考える・実際にあったトラブルから、捉え方を変えることで感じ方が変化することを実感する |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・不適切な言動があった際の指導場面で、感情的にならずに部活動の顧問に相談することができた・以前はテストの後などに自分の思った通りの点数でなかったりすると解答用紙を破いてしまうことがあったが、指導後は「前回よりも○点上がっているからよかった」「あまり勉強できなかったけど、これだけの点がとれた」と捉え方を変えて、気持ちを切り替えることができた |

**通級による指導実践事例　中学校No.2**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・状況に応じた適切な社会性・コミュニケーションスキルを身につける・限定的な思考に陥らず、物事に折り合いをつけることができる |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　1年 | 指導時期 | 4月～ |
| ・自分の思っていることを言語化して相手に伝えることが苦手である・相手の立場や思いを想像して行動することが難しく自分中心的な考えになる傾向があり、社会性やコミュニケーションにおいて困難さがある・自分の行動を客観的にとらえる力に課題がある |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること |
| 人間関係の形成 | 自己の理解と行動の調整に関すること |
| コミュニケーション | コミュニケーション手段の選択と活用に関すること |
| 本事例のキーワード | 自己理解　アンガーマネジメント　相談するスキル |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①②について**・生徒自身が「得意なこと」だけでなく、「苦手なこと」についても評価できていることに対して、教員は肯定的な言葉かけを行う・チェックをつけ終わった後、教員と生徒で結果を見直す・特に高い評価や特に低い評価については、判断した理由や、在籍校でのエピソードも交流しながら再評価を行う | ・自分自身の苦手な部分や得意な部分について適切に把握することができた・在籍校でのエピソードを思い出しながら、自分自身がどんなことに気を付けて生活しているかを話すことができた |
|  |  |
| **自己理解ができる** |
| **①自己理解への取り組み**・スキルチェックリストを用いて、自分の持っている力について評価を行う*【参考Ａ】***②目標設定**・評価をもとに、自分にその力が足りていないと思った場面について交流する。また生徒自身が必要と感じているかどうかについて話し、次回の目標設定につなげる |
| 【第二段階に向けて】・怒りを感じたときに適切な行動がとれなくなるため、その対処法を学ぶ |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①について**・一般的な例と、生徒自身が実際にトラブルを起こしてしまったエピソードを事前に学校から収集し、ワークシートの内容に含める**②③について**・事前に「行動のパレット」の学習で、行動が「危険な行動」「注意すべき行動」「人によって良くないと思われる行動」「適切な行動」に分類できることを学習させる | ・気持ちが落ち着かなくなると不適切な行動をとることがあったが、意識してその場を離れるなど対処法を実践することができるようになった |
|  |  |
| **怒りへの対処法を学ぶ** |
| **①怒りを感じる場面を知る**・どのような場面でどれくらいの怒りを感じるか、具体的な例をもとに自分で評価を行う*【参考Ｂ】***②行動の振り返り**・怒りを感じたときにとったことのある行動を例の中から選ぶ*【参考Ｂ】***③対処法を考える**・苛立ち、怒りを感じたときに自分でも実践可能な対処法を例の中から選ぶ |
| 【第三段階に向けて】・自分の気持ちを言葉で表すことに課題があるため、自分から相談や報告できるスキルを身につける |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | **①②③について**・生徒が実際に大人に相談できたエピソードを小学校や保護者から聞いておきその内容について交流する・相談する場合と相談しない場合のそれぞれのメリットとデメリットについて、生徒にわかりやすいように教員が視覚的に示す | ・教室内で困っていることがあると担任に相談して、問題解決のために大人の力を借りることができた・相談できたことを通級指導教室で報告することができた・一方で、そのときの気持ちの状態によっては自分の悪かったところを認められないことなどもあり、今後の課題である |
|  |  |
| **相談するスキルを身につける** |
| **①相談に対する抵抗感を把握する**・「相談しやすいこと」と「相談しにくいこと」を挙げる**②相談相手を決める**・相談内容ごとに、誰に相談すれば問題が解決しやすいかを考える**③シミュレーションを行う**・相談する相手や内容によって、いつ、どこでなら相談しやすいかを考え、シミュレーションする |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・4月当初は友だちとトラブルになったときに、不適切な言動があったが、現在では意識して自分から担任に報告・相談ができており、クラス内で不安な様子をみせることがなくなった・相談したことにより問題が解決できたことが生徒の自信につながっている |

**通級による指導実践事例　中学校No.3**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・通常の学級で授業を落ち着いて受けることができる・授業などで苦手なことや困ったことがあったとき、どうしたらよいのかを考えることができる |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　1年 | 指導時期 | 4月～11月 |
| ・授業中内容が難しいと、自由に発言をしたり、席を離れたりする・友だちに自分の気持ちをうまく伝えられず、たたいてしまうことがある・注意を受けると、何もしゃべらず、動かなくなる・個別の指導は集中して受けることができる |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 状況の理解と変化への対応 |
| 人間関係の形成 | 自己の理解と行動の調整 |
| コミュニケーション | 状況に応じたコミュニケーション |
| 本事例のキーワード | 衝動性　トークンエコノミー　社会性 |
| 【指導の具体的な様子】 |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①について**・自分がどんなことが得意（不得意）なのかに気づかせる・不得意なことをするときに、自分が不安を感じていることに気づかせ、その不安にどう対処すればよいのかを考えさせる**②について**・ゲームをする中で、トラブルや勝手な行動があったときのために、通級指導担当者はそばで見守る | ・通常の学級で過ごしているときの自分と、通級指導教室で過ごしているときの自分を比べ、「通級ではできるんやけどな…」とつぶやくことがあった・通常の学級での不安定な自分に疑問や違和感をもつようになった |
|  |  |
| **自己理解を深め、学校生活に慣れる** |
| **①ワークシート（かもがわ出版「SSTワークシート」）を使い、自分を知る**・通常の学級での過ごし方を振り返り、通級指導教室で過ごしているときの自分と比較する・自分の長所と短所を知る**②友だちとカードゲームをする**・通常の学級の友だちとゲームを通してつながりを持つ |
| 【第二段階に向けて】・不適切な行動を減らし、適切な行動を認められるようになる・教員が支援の観点を明確に持つ |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①について**・「チャイム着席をする」など、日常の行動について、目標を達成できたら授業担当の先生にサインをもらい、ポイントがたまったら、本人が好きな卓球を15分間できることにする・「〇〇をする」→「自分にとって良いことが起こる」→「また〇〇をしたい」という思いを持たせ、良い行動を強化する**②について**・衝動性をコントロールするため、体を動かすことをさせる | ・ポイントカードにサインをしてもらう際、良いことをして授業担当の先生との交流ができるので、本人もうれしそうにしていた・ポイントカードの項目を12項目にしたところ、その中で本人が前向きに取り組むのは1、2つの限られた項目であった |
|  |  |
| **「良い行動」を強化する** |
| **①「良い行動」を強化する**・「〇〇さん　とってもいいね　ポイントカード」で、できたことに対してポイントをもらう　*【参考Ａ】***②通級指導時に体を動かす**・「風船バレー」「コグトレ棒」などを使いながら、体を動かす機会を増やす |
| 【第三段階に向けて】・他の項目についても取り組めるよう、項目を絞る・保護者との連携方法を探る |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | **①について**・ポイントカード1枚目、2枚目で「ほぼ達成できていること」をしっかりと認めつつ、そのほかの項目について、本人が努力できそうなものを選択することを促し、ステップアップさせる**②について**・本人が保護者から認められることを非常に喜ぶので、１つの連携方法としても「がんばったよカード」を渡し、本人の励みにする | ・通常の学級での授業において、教科担当の教員から「〇〇さん、このときすごくがんばってましたよ。」という声を聞くことが増え、それを本人に伝えることで、さらなる意欲の向上につながった・困ったことがあるとき等、以前よりは話しだすのが早くなったが、まだ難しいときもある |
|  |  |
| **他の「良い行動」にも取り組む** |
| **①「〇〇さん　とってもいいね　ポイントカード」の項目を絞る**・本人が「自分ががんばりたい項目」を選択する・毎回同じ内容になりそうな場合、努力できそうなものについても検討する。**②保護者に報告する**・通級指導を行った日に、保護者へ「がんばったよカード」を渡す |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・通級指導時に、通常の学級での授業を少しずつ振り返ることで、本人の自己理解につながった・昼休みに友だちと通級指導教室で遊ぶことで、適切な人間関係を構築するきっかけとなった・通常の学級でできることが少しずつ増えてきた |

**通級による指導実践事例　中学校No.4**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・自分が悩んでいることや困っていることを何らかの方法で人に伝える |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　１年 | 指導時期 | 4月～11月 |
| ・家庭では会話ができるが、学校では友だちと会話ができない・決まった言葉「失礼します」「ありがとうございました」などは小さな声で言える・動作がゆっくりで、ぎこちないところがあり、緊張すると瞬きの回数が多くなる・授業では話を聞く、ノートを書くなど、しっかりと取組めている |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 状況の理解と変化への対応 |
| 人間関係の形成 | 自己の理解と行動の調整 |
| コミュニケーション | 状況に応じたコミュニケーション |
| 本事例のキーワード | 場面緘黙　不安　緊張　社会性 |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①について**・初めての場所で慣れないことも多いので、通級での時間は「安心できる」ということと、「楽しいことがある」と思えるような時間をつくるようにする**②について**・本人にとって初めてのことばかりなので、聞きたいことがないか、あればメモに書くよう促す | ・会話するときは筆談が中心だが、それもかなり緊張した様子だった・活動もまだぎこちない様子であったが、「メモを使って聞くことができる」のは、本人にとっては安心だったようである・カードゲームなどをしているときは、比較的穏やかな表情だった |
|  |  |
| **通級指導での楽しい経験をつむ** |
| **①ゲームやコグトレ等を通して、通級で楽しい経験をつむ**・カードゲームやコグトレをしながら楽しくコミュニケーションできる時間をつくる**②メモに聞きたいこと、困ったことを書く練習をする** |
| 【第二段階に向けて】・本人が不安を感じ、緊張していることを丁寧に把握する・自己理解を深める |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①について**・「通級で先生と筆談する」「教室に入る」「おうちでお母さんと話す」といった項目を付箋で作り、緊張や不安度を五段階に分け、本人に貼らせる**②について**・一緒に読み進めながら、何回かに分けて、自分が当てはまる部分に〇や△をつけ、「性格の特徴」「自分の状態」を理解できるようにする | ・家で話をすることが、一番緊張度が低く、学校のトイレに行くときは緊張度が高いなど、意外な場所や状況で、緊張度が高いことが分かった・一緒に活動を進めるなかで、悩みながら判断する場面と、すぐに判断できる場面の差も把握することができた |
|  |  |
| **自己理解を深める** |
| **①不安と緊張をレベル分けする**・「どきどき・きんちょう度チェックシート」を使い、不安や緊張を感じることをレベル分けする*【参考Ａ】***②自分自身を知る**・かんもくネット「中高生用　場面緘黙を理解するために」を使い、自分自身の状態を知る　*【参考Ｂ】* |
| 【第三段階に向けて】・保護者との連携をはかるため、三者でコミュニケーションをとる機会をつくる・自己評価を高める |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | ①について・本人の書いた内容について、肯定的なコメントを返し、自己理解を促すとともに、自信を持たせる②について・第二段階の付箋に「おうちの人、先生と通級でゲームをする」という項目の不安・緊張度が低かったため、可能な範囲で保護者に通級指導の時間に来てもらい、連携を深めながら、本人のリラックスできる時間をつくる | ・「良い」「いや」という感情が表情でわかるようになった・通級指導開始時は非常に小さくささやくような声だったが、しっかりとした声になってきた・第二段階で、学校生活のなかでの不安が意外と多いことがわかったので、通級指導時にそれを念頭に置いてコミュニケーションをとることができるようになった・まだ本人にとって不安な面は多々あるので、少しずつ取り除きたい |
|  |  |
| **自己評価を高める** |
| **①簡単な日記を書く**・一言日記を書き、その日の自分を振り返る**②保護者と本人、通級担当の三者で話をしたりゲームをしたりする**・放課後の通級指導の時間を使い、月に１回程度保護者と三者で活動する時間をとる |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・チェックシートなどを使うことで、自己理解につながった・学習に関することについては、困ったことを聞くとメモで伝えられるようになった・少しずつ感情が表情に表れるようになった |

**通級による指導実践事例　中学校No.5**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・不得意な学習課題に取り組み、日常の学習意欲を維持することができる・学習内容について、わからないことを質問することができる |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　1年 | 指導時期 | 6月～3月 |
| ・集中を維持することが難しいが、学習には真面目に取り組む・ＡＤＨＤの診断があり、学校のある日はコンサータを服用して登校する・精神障害者保健福祉手帳を所持・心理検査（2019.3実施/WISC-Ⅳ）では、「言語理解」「短期記憶」に課題 |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 情緒の安定／障害による学習上の困難を改善・克服する意欲 |
| コミュニケーション | 言語の受容と表出／言語の形成と活用 |
|  |  |
| 本事例のキーワード | ＡＤＨＤ　学習困難　自己肯定感 |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①について**・学習場面における生徒のつまずきを分析する・生徒とのやりとりには、言語だけでなく、ホワイトボードを活用し、絵や図なども活用する・各教科担当から、授業での生徒の学習活動の様子をきく・各教科担当からその都度、授業の重点内容等の情報をきく・通級指導の内容を、学級担任やその他教科担当と情報交流、情報共有する*【参考Ｂ】* | ・通級指導教室では、本人の特性に応じた支援をすることで、ひたむきに学習に取り組み、充実感を持っている様子だった・通常の学級では、真面目に学習に取り組み続けた・学級担任や教科担当が生徒の障がい特性について理解を深めた |
|  |  |
| **自信が持てない教科について、通級指導で自己のつまずきを知る** |
| **①自分のつまずきを知る**・日常の学習で理解が不十分だった内容を、通級指導の時間に重点的に学習する・中学校入学後に自信がなくなった理科や国語についての学習にも比重を置く |
| 【第二段階に向けて】・通級指導教室の活用を継続する・学習のどこでつまずいているかを自覚し、通級指導教室で質問できるようになる |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①について**・生徒とのやりとりには、言語だけでなく、ホワイトボードを活用し、絵や図なども活用する・各教科担当から、授業での生徒の学習活動の様子をきく・各教科担当に重点内容や学習課題等について確認しておく・通級指導の内容を、学級担任やその他教科担当と情報交流、情報共有する*【参考Ｂ】* | ・通級指導教室では、担当教員に対してよく話し、質問できるようになった・通常の学級では、真面目に学習に取り組み続け、質問する場面が見られるようになった・学級担任や授業担当が生徒の情報を伝えてくれることが増えた |
|  |  |
| **学習でのつまずきに気づき、通級指導教室で質問することができる** |
| **①質問の仕方を考える**・学習上でのつまずきに自ら気づき、どのように学習していくかを自ら判断する・通級指導の際、わからないところを口頭もしくは図にして質問する |
| 【第三段階に向けて】・得意分野を伸ばすことをめざす・学習上のつまずきを自覚し、学級で質問できるようになる |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | **①について**・生徒とのやりとりには、言語だけでなく、ホワイトボードを活用し、絵や図なども活用する・各教科担当から、授業での生徒の学習活動の様子をきく・各教科担当に重点内容や学習課題等について確認しておく・通級指導の内容を、学級担任やその他教科担当と情報交流、情報共有する*【参考Ｂ】* | ・不得意な学習課題にも積極的に取り組むことで、日常の学習意欲を維持することができた・得意な学習内容に取り組むことで、学習への自信を伸ばすことができた・日常の学習や授業については自信をつけたが、定期テストについては不安を感じているため、計画的に準備するための方法について取り組む |
|  |  |
| **学習でのつまずきに気づき、通常の学級で質問することができる** |
| **①通常の学級での質問の仕方を考える**・通常の学級での学習の際、わからないところを自覚し、クラスメイトや担当教員に質問する・授業参加への自信については、数値化して確認する*【参考Ａ】*・自信のある「数学」の学習に重点を置き、自信をさらにつける |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・通級指導で自己のつまずきを確認、整理し、その特性に応じた学習をすすめることで、学習上の不安が軽減され、学習への意欲の維持につながった・通常の学級で授業を受けることについて、徐々に自信を持ってきた様子が見られた |

**通級による指導実践事例　中学校No.6**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・気持ちや状況を言語で表現することができる・日常の生活をふりかえり、自己理解を進めることができる |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　2年 | 指導時期 | 6月～3月 |
| ・学校生活には前向きで、真面目な性格・自分の気持ちを言語化して表現することが困難・学校での人間関係に自信をなくして、不安を感じている・疲労感や体の緊張、怒りっぽくなるようなストレス反応が見られる |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 情緒の安定 |
| 人間関係の形成 | 自己の理解 |
| コミュニケーション | 状況に応じたコミュニケーション |
| 本事例のキーワード | ふりかえり　感情のコントロール　コミック会話　ストレスマネジメント　リラクセーション |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①について**・トラブルの状況をふりかえる際には、ホワイトボード上で視覚化する　（コミック会話を使用）*【参考Ｂ】*・ストレス反応については、良い悪いの判断は行わない・身体的なアプローチにより筋緊張を弛緩させる＊通級担当と通常の学級担任との情報共有、学年教員間での情報共有を行う | ・学校での人間関係だけでなく、家族との人間関係も整理する機会を持てた・リラックス状態を知る機会を持てた |
|  |  |
| **自分の状態を把握する** |
| **①自分の状態を把握する**・トラブルになったときの自分の　心境をふりかえる・ストレス反応に関する質問紙を　用い、自分のストレスの状況を把握する・自分の不安や心身の緊張の状態に気づき、その緩和をめざす |
| 【第二段階に向けて】・日常のふりかえりをする機会を設け、継続的に自分のコンディションに関心を持たせる |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①について**・トラブルの状況をふりかえる際には、ホワイトボード上で視覚化したことを言葉で説明させる*【参考Ｂ】*・怒りの程度を数値化し、冷静さが　なくなるポイントを自覚させる*【参考Ａ】*・トラブルにつながる考え方を自覚させ、そうならない考え方に気づかせる*【参考Ａ】*・身体的なアプローチの継続＊通級担当と通常の学級担任との情報共有、学年教員間での情報共有を行う | ・トラブルの際の自分の言動について、理解し受けとめることができるようになった・怒りの程度について、関心を向けるようになった・トラブルになった事象の原因を焦点化し、トラブルにつながらない考え方を検討した |
|  |  |
| **自分の行動や気持ちをふりかえる** |
| **①自分の行動をふりかえる**・トラブルになったときの自分の　行動をふりかえる・暴力、暴言で対応してしまう時の怒りの度合いや、興奮が高まる状況を知り、適切な対応方法を学ぶ・自分の不安や心身の緊張の状態に気づき、その緩和をめざす |
| 【第三段階に向けて】・トラブルになった際の自己の言動について、言語で表現できるようになる |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | **①について**・トラブルの状況をふりかえる際には、自分の言葉で説明するように意識させる・トラブルにつながった行動だけでなく、その原因や環境要因についても関心を向けさせる・身体的なアプローチの継続＊通級担当と通常の学級担任との情報共有、学年教員間での情報共有を行う | ・気持ちや状況を言語で表現するように努めている様子が見られる・自己理解を進め、トラブルになった際の自分の状況やトラブルにつながる先行条件などに関心をむけるようになったが、日常生活の中では自己への関心が薄いことが今後のの課題と考えられる |
|  |  |
| **自分の行動や気持ちについて、自分の言葉で説明する** |
| **①自分の言葉で説明する**・トラブルになったときの自分の気持ちや行動を言語化する・トラブルになる状況をふり返る中で、その行動に至った原因や環境要因を考える・自分の不安や心身の緊張の状態に気づき、その緩和をめざす |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・「家族とのケンカが減った」との本人からの発言があった・落ち着きが見られるようになり、学校での対人トラブルが減少した・興奮や不安といった自己の状況を言語化して表現しようとする態度が見られるようになった |

**通級による指導実践事例　中学校No.7**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・自分が思ったことや感じたことを言葉で説明することができる・視覚支援の教材を使用し、英語に関しての前向きな学習の姿勢を身につける |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　2年 | 指導時期 | 5月～ |
| ・授業中に集中力が続かない・記憶の保持が難しく、集団の中で話の内容などを覚えておくことが難しい・自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 状況の理解と変化への対応 |
| コミュニケーション | 状況に応じたコミュニケーション |
| 本事例のキーワード | 視覚支援　操作活動 |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①について**・カードを使って、視覚支援を行い、アルファベットの読みを学ばせる・楽しみながら行うことで注意集中を促す・声に出して読む、カードを選ぶことを繰り返し行わせることで、記憶の定着の手段を学ばせる＊通常の学級との連携通常の学級担任と英語担当に、本人の認知特性と指導内容を伝え、通常の学級での支援方法について共有する | ・通級指導時に、自信をもってアルファベットを読むことができるようになった・通常の学級の授業に対して前向きな姿勢で取り組むようにになった |
|  |  |
| **アルファベットの読み方を学ぶ** |
| **①アルファベットの読みを学ぶ**・アルファベットに親しみ、繰り返し声に出して、理解を深める　*【参考Ａ】* |
| 【第二段階に向けて】・アルファベットから単語の発音へつなげる |
|  | 第二段階の目標 |  | **①について**・カードを使って、視覚支援をしながら、単語の表記と発音の違いを学ばせる**②について**・絵と単語をマッチングさせ、視覚的な手段を用いて、単語数を増やし、記憶の定着の手段を学ばせる | ・単語を少し読めるようになったことで英語への苦手意識が緩和され、少しずつ自信がついてきた・自信がついたことで、自分の気持ちや考えを少しずつ伝えられるようになった・単語と絵がむすびつき、文字と意味のイメージがつかめるように　なってきた |
|  |  |
| **単語の発音を学ぶ** |
| **①フォニックスを用い、文字と読みをむすびつける**・一つの英語の文字に対して、複数の読み方を学ぶ**②単語と絵のマッチング**・法則にしたがって単語を読み、絵を活用して単語を覚える　*【参考Ｂ】* |
| 【第三段階に向けて】・単語量が増えたことを活用し、文法につなげる |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | ①について・具体的な活動を入れながら、集中力の持続を図り、単語カードを使い、文法を理解させる②について・カードを操作させることで、学んだことを確認させる③について・カードの色分けに基づいて、教科書に色分けをさせ、確認させる・視覚による支援と声に出して聴覚による支援をしながら、記憶を強化させる | ・カードでの並べ替えなどの操作は、消す作業がないので、「できる」という自信につながった・教科書を色分けしたことにより、教科書の英文が理解できるようになった・教科書の内容を、自分の力で理解しようという意欲につながった |
|  |  |
| **簡単な文法を学ぶ** |
| **①２語文～３語文の文法を学ぶ**・スモールステップで文法を学ぶ**②カードで文法づくり**・カードを操作して、主語、動詞、一般動詞を確認する　*【参考Ｃ】***③教科書を色分けする**・②で用いた単語カード（色分けしたもの）にそって、教科書の色分けをする |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・通級指導教室での学習によって、分かること、できることが多くなり、自信につながってきた。それに伴って、自分の考えを伝えられるようになり、声も大きく出せるようになってきた・特性に応じた学びをとおして、通常の学級で英語を読むことや訳すことができ、授業中の集中時間が伸びた。それに伴って、学習内容の理解がすすんだ |

**通級による指導実践事例　中学校No.8**

|  |  |
| --- | --- |
| 個別の指導計画における短期目標 | ・自分が思ったことや感じたことを言葉で伝えることができる・わかった、できたという経験を増やしていく |
| 通級指導開始時における生徒の状況 | 学　年 | 中学校　2年 | 指導時期 | 5月～ |
| ・聴覚から情報を受け取るのに難しさがあり、学習意欲につながりにくい・自分に自信がなく、自分の気持ちや考えを表出することに困難を感じている |
| 関連する自立活動の内容 | 区　　分 | 内　　容 |
| 心理的な安定 | 状況の理解と変化への対応 |
| 人間関係の形成 | 自己の理解と行動の調整 |
| コミュニケーション | 状況に応じたコミュニケーション |
| 本事例のキーワード | 自己理解　自己表出　対人スキル |
| **【指導の具体的な様子】** |
| 学 習 内 容 | 指導上の留意点（場面・内容） | 成果・課題・次段階に向けた取組 |
| 第　一　段　階 | 第一段階の目標 |  | **①②について**・自分の気持ちを客観的にみることができるように、Ａ　自己評価・自己受容Ｂ　関係の中での自己Ｃ　自己主張・自己決定といった観点で自分を振り返ることができるチェックリスト等を用意する | ・22の質問項目を教師と一緒に確認しながら、自分の気持ちを表出することができた・自己評価や今の自分を受け止めて、教師と話し合うことができた |
|  |  |
| **自分自身をとらえる** |
| **①自分の気持ちを知る**・自尊感情測定尺度のためのチェックリストを行う*【参考Ａ】***②チェックリストを分析する**・自己分析を行い、自分の得意なことや不得意なことを把握する*【参考Ａ】* |
| 【第二段階に向けて】・自分のことを伝えるために、語彙を増やす |
| 第　二　段　階 | 第二段階の目標 |  | **①について**・ルールの把握やゲームの過程において、「話を最後まで聞く」「自分の思いを表出する」などを、学ばせるための声かけや助言を行う | ・自分の思いを表現する語彙が増えた。・コミュニケーションのルールを学び、それに沿って話すことが、話しやすいことに気が付いた |
|  |  |
| **自己表現を増やす** |
| **①自己表現のための語彙を増やす**・コミュニケーションカードを使ったゲーム等を用いて、教師と対話をしながら、語彙を増やし、コミュニケーションスキルを学ぶ・コミュニケーションゲームから自己の内面をみつめる |
| 【第三段階に向けて】・自己評価が高まるように通級指導で経験を増やし、ありのままの自分を受け入れられるようにする |
| 第　三　段　階 | 第三段階の目標 |  | **①について**・本人と会話をしながら、場面と状況を把握させる・自分で考え、伝えることができたらしっかりほめる　 | ・困ったことが起きたとき、自分から「ヘルプ」を出せたり、自分の気持ちを、短い言葉で伝えたりすることができるようになってきた |
|  |  |
| **相手に気持ちや考えを伝える** |
| **①場に応じた伝え方を考える**・ワークシートをつかい、「こんなときどのように伝えるか」を場面ごとに考える・自分だったら「どうするか」「どのように伝えるか」をワークシートに書き出す |
| **【通級指導の成果（生徒の変容）】** |
| ・同世代の生徒と意思疎通ができ、少しずつかかわりをもつことができるようになってきた・できたという達成感や話を聞いてもらえたという満足感があり、素直に前向きに通級での学習に取り組んでいる・通常の学級担任と通級指導担当教員の連携をとおして、全教職員が生徒理解を深め、本生徒とのかかわりを丁寧に行ったことで、学校生活の様々な場面で生徒自らが援助を求めることができるようになった |